

## テレホン法話原稿

### 第4組光澤寺候補衆徒 竹市昭英

浄土真宗を開かれた親鸞聖人は、和讃というものを作っておられます。平和の「和」の字と、礼讃の「讃」の字で和讃です。和ことば、すなわち日本語で書かれた礼讃の言葉、すなわち歌です。この和讃は全部で三百五十三首あります。

これはただの著作とは違います。親鸞聖人の和讃の真筆本、直筆の本を見るとよくわかります。まず、一番の特徴は字が大きくはっきりくっきり書かれていることです。もう一つの特徴は、漢字に読み仮名と発音の記号が付けてあることです。

親鸞聖人はこの和讃をただ単に読んでもらいたいのではなく、声に出してしかも皆で一緒に唱和してほしかったのです。これは日本では最初の試みだったのです。

親鸞聖人は、仏教の教えを何とか少しでも多くの人に伝えたかった。それにもまして正しく伝えたかった。この「正しく」というのが、親鸞聖人が九十年の生涯をかけてやられたことなのです。この「正しく」というのは、私の言っていることは正しいから皆は聞かなければならない、というのとは違います。親鸞聖人が聞かれた、受け取られた教えを違うところなく、また他の人たちにも聞いてほしい。それが親鸞聖人の願いであり、和讃を作られた大きな動機なのです。

私たちは、和讃を大きな声で唱和しながら、親鸞聖人からの教えを正しく受け取りたいものです。

今、岐阜ではどなたでも参加できる「真宗公開シンポジウム」という会を開催しています。ここでは、日頃疑問に思っていること、質問したいこと、自慢したいことを自由に話し合うことができます。

毎月1回です。次回は5月20日火曜日、午後2時から岐阜教務所にて開かれます。そこでお会いしましょう。